

対話的アプローチによる保育実習の振り返りの 授業実践とその課題

Conversation-based Lectures of Reflective Practice Guidance of Child Care Training and Its Issues

キーワード 実習の振り返り, 保育実習, 対話的アプローチ

Key word: reflective practice guidance, nursery teacher training, conversation based

利根川智子

Tomoko Tonegawa

音山若穂 (群馬大学)

Wakaho Otoyama (Gunma University)

織田栄子 (聖霊女子短期大学)

Eiko Oda (Seirei Women's Junior College)

上村裕樹 (聖和学園短期大学)

Hiroki Uemura (Seiwa Gakuen College)

三浦主博 (東北生活文化大学短期大学部)

Kimihiro Miura (Tohoku Seikatsu Bunka Junior College)

要 約

本研究は、ホールシステム・アプローチをもとにした集団的対話技法であるAIミニ・インタビューを用いた実習指導プログラム案を提案するために改めて授業実践を行い、最終的に提案するプログラムの具体的な実施方法と実施内容について考察することを目的とした。ペアでの相互インタビューによる実習中の成長ストーリーの作成と保育者として成長するための課題探し、グループ内での共有とメンバーに共通する保育者として成長する上で課題となるキーワード探し、キーワードの全体発表とその後のグループでの対話を実施し、作成された成長ストーリーと課題、参加した学生が感想として記入した満足度、困ったこと、より実りある授業実践に向けた提案等について分析を行った。その結果、参加した学生による質の高い成長ストーリーと課題の発見がなされる可能性があり、自己評価は総じて高く、グループ対話で生成されるキーワードも肯定的な内容が多かったことが見出された。本研究で示したAIミニ・インタビューを用いた実習指導については、一定の成果があったと考えられる。

I 目 的

保育者にとって、自らの保育実践を反省的に省察する力を持つことは重要な課題の一つである。筆者らは、和田ら(2010)¹⁾に基づき、ホールシステム・アプローチをもとにした集団的対話技法により、省察力を高めるプログラム開発を検討してきた(利根川ら, 2017; 音山ら, 2015)²⁾³⁾。養成課程においても学生の省察力をいかに高めるかは教育課題の一つであり、その中心となるのは保育実習の事前・事後指導である。筆者らはこれまで、ワールドカフェやAI (Appreciative Inquiry) ミニ・インタビューを取り入れた実習指導を行い、指導法の検討を進めてきた。このうちワールドカフェを用いた指導については、指導の前後で集団雰囲気や保育者省察尺度を測定した結果、指標に変化が認められ、一定の

成果が確認されている（利根川ら，2011；三浦ら，2012）⁴⁾⁵⁾。一方，AIミニ・インタビューを用いた指導については，いくつかの実践例を報告してきたが（利根川ら，2017，2015；三浦ら，2015；音山ら，2015）²⁾⁶⁾⁷⁾³⁾，指導前後の比較による成果は十分に確認されておらず，演習プログラムの構成や進め方については，課題が残るものとなっていた。

AIミニ・インタビューを取り入れた指導について，これまでの実践から析出された課題は，主に以下の二つである。

第1に，インタビューを通して生成されるストーリーの質の確保である。このプログラムでは，まず学生同士がペアとなって相互インタビューを行い，お互いに相手の実習体験をエピソードにまとめ，その後にストーリーテリングの手法を用いてプレゼンテーションをするのであるが，相互インタビューの段階で時間が掛かり，授業時間内ではまとまらなかったり，逆に時間を意識するあまり浅いインタビューにとどまってしまったりして十分なストーリー化がなされないことがあった。その原因として，一つにはリスニング・スキルの不足があり，言葉少ななペアの話聞くうえで，相手の話を引き出す働きかけが足りなかったり，話題の核心をとらえることができず，感覚的に理解しているつもりになってしまって誤解が生じてしまったりすることがあった。また，エピソード自体についての理解不足もあり，どのようにエピソードを作ったらよいか分らず，単に聞き取った話を書き留め，その先に何をしたらよいか指示待ちの状態になる学生もみられた。このように，相手の話を積極的に聞き，そこからエピソードを抽出して，十分な省察を行うことができるストーリーにまとめるまでの過程に，指導上の工夫が求められていた。

第2に，肯定的な変化（positive change）の確認である。この指導が基礎としているAI（Appreciative Inquiry）は元来，組織変革の手法であり，長所や強み，うまくいったことといった肯定的な側面をインタビューによって積極的に引き出すことで，現状認識を肯定的に変化させ意欲を喚起し，個人や組織の持つ能力を最大限に引き出して組織変革の原動力とするという考え方をとっている。これを実習指導の文脈に置き換えれば，インタビューを通して実習体験から肯定的な省察を積極的に引き出すことで，新たな視点が得られるとともに，学習意欲を喚起するということになる。そこで，インタビューから生成されたストーリーの中には，体験を肯定的に捉え直している文脈が含まれ，かつ，学習後の自己評価では評価が高まることが期待されるが，その点についての検証はまだ行われていない。そこでまず，体験を肯定的に捉えた省察が十分に行われるような，指導上の工夫が求められていた。

そこで本研究では，以上の課題を踏まえ，これまで筆者らが行ってきた実践授業を見直し，最終的な指導プログラム案を提案することを目的に，改めて授業実践を行った。本稿においては，そのプログラムの具体的な実施方法と実施内容，および学生の実習振り返りを通して，上述の課題について考察することを目的とする。

II 方法

1. 実施期間

保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱ終了後の2019年10月17日，10月24日，10月31日に各1時限，合計3時限でAIミニ・インタビューを実施した。

2. 参加者

授業の履修者94名であった。このうち，各回の出席者数は，10月17日が93名，10月

24日および31日が94名であった。感想は出席者全員が記入した。分析対象とするのは、2回目の授業までに保育実習Ⅱが終了していた89名の回答とした。

3. 各回の授業の感想

各授業の最後の約5分間で、履修学生に授業の感想の記入を求めた。授業の感想については、利根川ら(2013)⁸⁾を改変し、質問項目を作成した。ペアでのインタビューについての所要時間や5段階評価での感想や改善点について質問した第1回目の質問内容を表1-1に、第1回目の授業時間内に終わらなかった場合に宿題となっていたペアでのインタビューのまとめに要した時間やグループでの対話の時間、および「そう思わない」から「そう思う」までの5段階評価での感想や改善点について質問、第2回目の質問内容を表1-2に、全体発表を聞いた感想とAIミニ・インタビュー全体の改善点について質問した第3回目の質問内容を表1-3に示す。

表 1-1 授業第1回目の相互インタビューの感想

・ペアでのインタビューはどのくらいの時間がかかりましたか。
 _____分くらい

・インタビューでちょうどよくお話しできる時間はどれくらいでしょうか。
 _____分くらい

・ペアでのインタビュー中に困ったことがあれば、教えてください。
 (こういうときに答えに詰まった、こういう時に/こういう内容で質問が思いつかなかったなど)

・ペアの人と話して、どう感じていますか。当てはまる番号に○印をつけてください。

番号	項目	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	い え な い	ど ち ら か も	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1	ペアの人とじっくり話をすることができた	1	2	3	4	5	
2	ペアの人に自分の話をじっくり聞いてもらった	1	2	3	4	5	
3	ペアの人の話をしっかりと聞くことができた	1	2	3	4	5	
4	自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	1	2	3	4	5	
5	自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	1	2	3	4	5	
6	自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	1	2	3	4	5	
7	自分の実習体験を、ポジティブに(前向きに、プラスに)考えることができた	1	2	3	4	5	
8	自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	1	2	3	4	5	
9	これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	1	2	3	4	5	
10	自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	1	2	3	4	5	
11	これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	1	2	3	4	5	
12	学生生活や自分の将来に向かって、ペアの人との話から得た良いところを取り入れたい	1	2	3	4	5	

・今日の授業の方法で、他にこうするともっと良かったらと思うことがあれば教えてください。

表 1-2 授業第2回目のグループでの対話の感想

・インタビューまとめの紙面作成にはどのくらいの時間がかかりましたか。
 _____分くらい

・グループでのキーワード探しには、どれくらいの時間がかかりましたか。

_____分くらい

・グループでの対話中に**困ったこと**があれば、教えてください。

(こういうときに答えに詰まった、こういう時に/こういう内容で質問が思いつかなかったなど)

・ペアの人と話して、どう感じていますか。当てはまる番号に○印をつけてください。

番号	項目	そう 思わない	あまり 思わない	いえ ない	どちら とも	やや そう 思う	そう 思う
1	グループの人とじっくりと話をする事ができた	1	2	3	4	5	
2	グループの人に自分の話をじっくり聞いてもらった	1	2	3	4	5	
3	グループの人の話をしっかりと聞く事ができた	1	2	3	4	5	
4	自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	1	2	3	4	5	
5	自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	1	2	3	4	5	
6	自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	1	2	3	4	5	
7	自分の実習体験を、ポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた	1	2	3	4	5	
8	自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	1	2	3	4	5	
9	これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	1	2	3	4	5	
10	自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	1	2	3	4	5	
11	これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	1	2	3	4	5	
12	学生生活や自分の将来に向かって、グループの人との話から得た良いところを取り入れたい	1	2	3	4	5	

・今日の授業の方法で、他にこうするともっと良かっただろうなと思うことがあれば教えてください。

表 1-3 授業第 3 回目の全体発表の感想

・AI ミニ・インタビューを終えて、いまどのようにお考えですか。あてはまると思う選択肢を選び、該当する番号に○印をつけてください。

番号	項目	そう 思わない	あまり 思わない	いえ ない	どちら とも	やや そう 思う	そう 思う
1	全体発表に興味を持って聞くことができた	1	2	3	4	5	
2	全体発表を聞いて新たな気づきがあった	1	2	3	4	5	
3	全体発表後のグループでの対話で発見や気づきを共有できた	1	2	3	4	5	
4	自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	1	2	3	4	5	
5	自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	1	2	3	4	5	
6	自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	1	2	3	4	5	
7	自分の実習体験を、ポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた	1	2	3	4	5	
8	自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	1	2	3	4	5	
9	これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	1	2	3	4	5	
10	自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	1	2	3	4	5	
11	これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	1	2	3	4	5	
12	学生生活や自分の将来に向かって、AI への参加から得た良いところを取り入れたい	1	2	3	4	5	

・『AI ミニ・インタビュー』をもっと取り組みやすく、実り多いものとするために、何かアイデア（こうしたほうがいい）はありますか？

・今回の AI 全体を通した満足度を教えてください。☆☆☆☆☆（星 　　つ）

Ⅲ 対話的アプローチを用いた授業実践

授業は連続した3時限分を用いた。各時間の実施内容を表2-1～3に示す。説明および授業の中で用いる提示資料については、全3回分を授業前に配信していた。

1. 1 限目（表2-1）

この時間では、ペアでのインタビューおよび対話を通して、自らの実習中の出来事を振り返って再解釈し、また、インタビュアーという別な考え方・視点をもつ相手との対話を通して、省察を深め、自らの課題とその解決について考えることを目的とした。

AIミニ・インタビューについての説明を行った。授業の流れは、①色画用紙の配布、②2人組になって着席、③AIミニ・インタビューを行うこと目的、④全3回分のAIミニ・インタビューの目的と概要、⑤インタビューの方法とまとめ方の説明、⑥実習中の出来事を通じた成長と今後の抱負に関する相互インタビューと成長ストーリーのまとめ、⑦授業についての感想を記入することであった。①から⑤までで約15分、相互インタビューは1人30分以内としたものの、実際に要した時間はペアにより異なり、授業の感想は5分程度の時間を取った。

表2-1 第1回目の授業の流れ

時間	内容	学生の様子
17時50分 18時 18時5分	<ul style="list-style-type: none"> 色画用紙、ペン、インタビュー用紙の配布 ペア又は3人組をつくって着席するよう声をかけた。実習振り返りの対話を行ったグループを基本として、ペアを作成した。実習の進捗や人数の関係上、グループ内で2人組になるのが無理な場合には、隣のグループと合体させてペアを作成した。保育実習未経験の学生は実習の様子を聞くため、ペアに混ざり3人グループとなった。 説明開始 <p>AIミニ・インタビューとは何か、AIミニ・インタビューの実施によりどのような振り返りができるのか、全3回の授業の進め方に関する導入的な説明を、プリントを用いて行った。そして、第1回目の実施内容として、インタビューの進め方、まとめの仕方と見本の提示、質問の時間があつた。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各自取りに行った。 グループ内で話し合いをしながら、ペア、または3人組になった。
18時15分	<ul style="list-style-type: none"> 学生相互のインタビュー開始 <p>話す順を決め、質問項目にそつて、そして相手の話を聞きながら、その時の状況や子どもの言動の背景にある気持ち、本人の気持ち、また、自分の経験と重ねたり未経験のことについて考えたりしながら補足的な質問をするよう伝えた。インタビューで語られた出来事について対話をする中で、実習中に思ったことや考えたこと、出来事についての別な見方ができるかどうか考えてみることを勧めた。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中に使っていたメモや日誌を見直しながら、思い出そうとしたり、話をどう進めるか考えようとしていた。 実習中の複数の出来事のうちどれかを選んだ。 実習中の出来事について、その時の気持ち、

<p>19 時 15 分</p> <p>19 時 20 分</p>	<p>相互インタビューの実施にあたり、困るようなことがあれば、教員が巡回するので相談するように伝えていた。</p> <p>インタビュー内容) インタビュー 1) あなたが実習によって経験した、「心に残った出来事や実践」を話してください。 インタビュー 2) 「心に残った出来事」から得た学びはどのようなものでしたか。 将来、あなたがステキな、頼れる“先生”になるためには、これから何を学び、どのようなになる必要があるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューが著しく滞っている様子のペアについては、様子を見て声をかけ、話が進むようにした。 ・インタビューが終わったペアから実習中の出来事を通した成長・抱負のまとめをするよう声をかけた。インタビューの聞き取り用紙に書いた内容を確認しながら作成した。1 枚の画用紙に絵を描き、もう一枚の画用紙にストーリーを描き、何も書いていない面を貼り合わせ、紙芝居のようにするよう説明した。 ※終了していない場合には、次回の授業の冒頭 10 分間で仕上げられる程度に作成しておくように伝えた。 ・授業の感想記入 ・次回の連絡事項（次回の持ち物等） ・ストーリーおよび抱負を描いた用紙を、預けたいという学生から預かった ・終了、片付け 	<p>違った見方ができるか、どのような成長につながったのか、これからどのような学びをするかなどを話した。自分の体験をもとに引き出そうとしたり、思い出そうとして考えたり、話を聞きながら共感したり、話を引き出そうとして質問を工夫したりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話をしながら、お互いの体験した内容に共感的な態度で質問をしたり、同じような実習中の出来事について紹介したりしていた。 ・クラス内は全体的に肯定的で穏やかな雰囲気であった。 ・話からストーリーを作成した。協力するペア、それぞれ相手のストーリーの作成に集中するペアがあった。 ・まとめの際の絵の大きさがどの程度だと、グループでの発表時に紹介しやすいか教員に質問しながら考えた。
-----------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 2 時限目 (表 2-2)

この時間は、学生たちが他のメンバーの経験を聴き、自分の実習中の体験と重ね合わせながら解釈を新たにしたり、同じ出来事について共感したりしながら対話を深め、他のメンバーの経験により保育および保育者に関する洞察を深めていくことを目的とした。また、グループのメンバーに共通する課題を探ることにより、自分だけだと思っていた課題には他の人と共通することがあったり、自分だけの課題についてさらに考えたりすることを通して、保育者になる上での課題を探り、課題への取り組みについて考える力を養うことを目的とした。

冒頭の約 10 分程度をインタビューまとめの仕上げに充て、その後、まとめに用いた画用紙の色を集める方法でグループを作成しペアで作成した成長ストーリーと抱負のまとめを紹介した。

語られたストーリーの内容について対話をした後で、グループ内で共通する課題のキー

ワードを探し、どのようなことなのか説明を考えた。

表 2-2 第 2 回目の授業の流れ

時間	内容	学生の様子
17時50分 18時 18時10分	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導の授業に関する連絡事項 ・ストーリー用紙の仕上げの時間にした。 ・8人グループを作成，グループでの対話の時間を開始した。 第1回目のペアおよび三人組を崩さないまま，色画用紙4種類の色をなるべく多く集めてグループ作成するよう声をかけた。 ・話を聞いてメモを取るための模造紙，キーワードを書くための画用紙，ペンを配布した。 ・準備ができたことを確認し，グループ内での対話を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵などを完成させた。 ・なるべく話したことが無い相手とグループになるようにペアごとに画用紙の色を見ながら対話の相手を探した。 ・10グループに分かれた。 ・作成したストーリーを話したい順やじゃんけんなどにより順番を決めて紹介しあった。 ・共感したこと，同じ体験について伝えたり，未知の出来事や園の様子などについて確認したり，ストーリーをさらに掘り下げたりするような質問をするような話し合いをする中で，新たな発見をしたり，互いの内容を深めたりしていた。 ・他のペアの話をきっかけにして，関連する実習中のエピソードや子ども，保育者の言動について思い出したことなどを共有していた。 ・それぞれのペアの発表から，気づきを得ていた様子だった。
18時50分	<p>グループ内発表についての説明)</p> <p>パートナーを紹介しながら，模造紙を使ってインタビュー内容の概要を発表しましょう。</p> <p>発表の順番は自由です。 グループ内で決めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて共感したことやもっと知りたくなったことなどについても話してみましょう。 <p>グループ内で話したい人からペアの相手のストーリーを紹介と，紹介された内容についての対話をした。</p> <p>紹介されたストーリーの中で，何か感じる言葉や共感したこと，感じたことなどを模造紙に書き留めた。</p> <p>※18時40分までの予定で，グループで成長ストーリーを紹介すると伝えていたが，もう少し話したい様子があったため，10分間延長した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長ストーリー・抱負の発表を終了した。 ・グループ全員の話の内容から，「すてきな頼れる先生」になるために何を学ぶ必要があるのかを探し，キーワード3～5個と説明を考えた。 ※ストーリー・抱負について紹介が終わっていない場合には時間を見ながら継続するよう声をかけた。 	

	<p>キーワード探しの説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全員のストーリーから、「すてきな頼れる先生になるため」にこれから何を学ぶ必要があるのかを、考えてみましょう。 ・模造紙に自由に書き込みながら端的に示す3～5個の<u>キーワード</u>を探します。画用紙にキーワードと説明書きをします。(グループ内発表も含め、19:10頃までに) <p>※話し足りない様子があったので、5分程延長した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードが上手く見つからない場合には、見つけられるような視点を持っていくような働きかけを行った。 ・キーワード探しと説明の作成を終了した。 ※終了していない場合には、次回の授業の冒頭10分間で仕上げられる程度に作成する宿題とした。 <p>19時15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想記入 ・模造紙、キーワードを記した画用紙も希望により学生から預かった。 ・連絡事項等 <p>19時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終了、片付け 	<p>でもその意味が異なること、同じ意味で遣っていた言葉、自分では思いつかなかったり自分のエピソードには出てこなかったりしたものの大切な言葉、共通して語られていたことなどを話し、保育で大切にすることや、どういう保育者になりたいかなどを考えながら、キーワードをどの言葉にするか意見を出し合い、合意形成をしていた。合意形成が難しい場合もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードの説明文を作成した。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 3 時限目 (表 2-3)

この時間は、全体発表を聴き、自分たちと共通する課題があることを知り共感しながら課題とその解決について考え、また、一見同じキーワードでも異なる説明がつけられていることから「こういう解釈もあるのか」と知り、視野を広め、保育および保育者についてさらに考察することを目的とした。

全体発表に向けて仕上げの時間を取った後、順にグループ発表を行い、その後、短時間の対話の時間を設けた。

表 2-3 第3回目の授業の流れ

時間	内容	学生の様子
17時50分 18時	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導授業に関する連絡事項 ・説明開始 ・実習期間が第2回直前に終了した学生がいる場合には、新たに作成したストーリーの発表をした。 ・グループ発表の順番を決めた。 	
18時15分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループまとめの画用紙を仕上げる時間を取った。 	

18時25分	<ul style="list-style-type: none"> ・全体発表開始 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>全体発表の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほどまとめた内容を、全員に向けて発表しましょう。 発表時間は 1 グループ 3分～5分です。 具体的な話し合いの内容も紹介しましょう。 ・聴く人は、検討テーマのどんなところが興味深いのか考えてみましょう。 </div> <p>共通点、共感すること、興味深いところ等を考えながら聞くように説明した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で発表内容を確認しながら仕上げた。 ・グループの全員で交代しながら発表、または代表者2～3名が出てきて発表した。 ・聞いている学生は、共通するところなどを意識して、時には、グループのメンバーと小声で話をしながら聞いていた。 ・メモを見て話したり、心に残ったことを話したりしながら、他のグループとのつながりを改めて意識したり、他グループとの違いから分かったことを共有したり、他グループの発表内容に共感したりしていた。
19時05分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いた感想、共通点や共感するところ、それぞれ興味深かったところなどをグループ内で伝え合うように伝えた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発表後の対話の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループのどんなところが興味深かったのでしょうか。 ・グループで、共感・発見・学んだこと、感想などを話し合ってみよう。 </div>	
19時20分	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想記入 ・終了、片付け 	

IV 結果

1. ペアでのインタビュー・対話で作成されたストーリーおよび対話についての満足度、困ったことや改善案等

1-1. 実習中の出来事を解釈し、成長したと考えられる例

実習中に体験した事例について振り返りながら対話し、体験を共有していく中で、保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ共に、自分と子どもが接したときのこと、部分実習や責任実習での出来事、保育士がなぜ子どもにそのように接していたのかを振り返り、新しく二人で解釈をしたり、事例の中で語られた子どもや保育士、自らの実践についてポジティブな解釈をしたり、実習中の解釈について確かめたりするようなストーリーが作成されていた。具体的なストーリーの例を表3-1に、このストーリーを紹介するために描かれた絵を図3-1に示す。

表3-1 インタビュー・対話を通して成長したと考えられる例（例1）

① Y先生は保育所実習Ⅱの6日目に5歳児クラスで全日実習を行いました。布団を敷く時間に2人の男児が喧嘩をしており、担当のS先生が子どもたち全員の前で「もし自分が間違ったときに急にかみつかれたらどう思う？」と聞きました。するとAくんが「痛いからやだ」と答えました。

しかし、午睡の時間に体育座りをしているときにAくんの背中にRくんの足が当たったことから喧嘩が起きてしまいました。Aくんは激しくRくんを蹴ったり殴ったりしていたため、Y先生はRくんの安全を確保するため体を張って喧嘩を止めました。Y先生はAくんの側に行き、「さっきAくん友達が喧嘩したときに良いこと言ってなかった？先生聞いてたよ」と言うと「忘れてた」という顔を一瞬しましたが、Rくんをにらみつけ怒りをこらえたような表情でふてくされて寝てしまいました。Rくんは泣いていたため、「何があったの？話せるようになったら教えてね」と声をかけ落ち着くまで待ち、原因をRくんから聞きました。その後、「痛かったね」とRくんの気持ちに寄り添い、落ち着くまで傍にいて寝るまで見守っていました。起床してからもAくんは何度も怒る様子が見られましたが、S先生やY先生の顔を見て特に声かけをしなくても自分自身で手足を出す前に、「今Aくん〇〇されて嫌な気持ち」と自分の気持ちを伝える様子が見られました。その様子を見てY先生はさりげなくAくんに近づいて、「言えたじゃん」と褒めました。また「いきなり殴られたらどう？」とAくんに再度質問し、「分からないから困る」と答えたことから、A君はなぜ言葉で伝える前に手足を出してはいけないのかを理解したのではないかと思っただろうです。また、気持ちを伝える大切さを学んだのではないかと思いました。

② (A) Y先生はAくんが言葉で伝える前に手足を出してはいけないことを理解したと思っていました。(B) インタビューで話をする中で、S先生やY先生の顔を見るという行為から自分が悪いことをした・しようとしているという意識があるからこそ見られる行為ではないかということ、S先生が子どもたちに質問したときに「痛いからやだ」と自分の意見として表しているため悪いことだと理解していること、喧嘩をしてY先生に「先生聞いていたよ」と言われたときに「忘れてた」という顔をしたことから悪いことをした自覚があるということに気付きました。そして、その日の様子やRくんとの関係から、RくんがAくんの背中を誤って蹴ってしまったにもかかわらず、Rくんが自分の非を認めなかったためAくんは言葉で伝えきれず手足が出てしまったのではないかと考えました。そして、(C) これから子どもたちにとってより素敵保育者になるために、Rくんの普段から自分の非を認めない性格から他の子どもたちとトラブルが起りやすいことやAくんの怒るとすぐに手足が出てしまう性格などを他の保育士に相談し、協力しながら保育を行い、子どもたちが安心安全に過ごすことができるようにしようと思っただろうです。このことにより、実習生Y先生はまた一つ保育者としての力を伸ばしたのです。

※事例中の(A)(B)(C)および傍線は、考察で使用するために著者らが付けたものである。



図 3-1 ストーリー表面 (絵)

1-2. 実習中の出来事の解釈に留まったと考えられる例

実習中に体験した出来事をインタビューにより共有し、対話によって事例の解釈や課題および解決が深まっていかない例として、実習中の振り返りのみ終わっている場合、保育に必要な知識の使用がうまく行かずにポイントがずれていったといったことが挙げられる。対話は基礎となる知識があることで深まるが、その知識を身につけることと実践的な使用については現職者になってからも育っていくので速成は難しい。また、実習中に十分振り返って考えた、そして、ペアも相手の答えが出ていたのでそれ以上どのように深めると良いのか、視点を切り替えていけるのかを見つけられないと考えた例であろう。事例の共有に終わっていた例を表 3-2 に挙げる。

表 3-2 実習中の振り返りに終始したと思われる例（例 2）

M 先生は 3 歳児クラスで責任実習の新聞紙遊びをしました。赤組と白組に分かれた子どもたちを対面して座るよう声がけをしました。そして、次の遊びの説明をしようと思いました。しかし、子どもたちはお友だちとの会話に夢中で、説明が聞ける状態ではありませんでした。M 先生は、「静かにしようね！」と子どもたちに声がけをしました。聞いている子どももいれば、聞いていない子どももいました。そして、また子どもたちは会話を始めてしまったのです。M 先生は徐々に不安な表情になっていきました。M 先生の表情を見て“困っている”と気がついた赤組の R 君が白組の子どもたちに向けて「うるさいっ！」と言いました。白組の子どもたちは気がついて、R 君に「R 君がうるさい！」と言いついに合ってしまった。そして、30 人の子どもたち全員が叫んでいる状態になってしまいました。その時、M 先生は担当の先生から教えていただいた (D) 「必ずしも大きい声で伝えることが、子どもの注意を向ける方法ではない」ということを思い出しました。M 先生は「しーっ」と言ってみましたが、子どもたちには伝わりませんでした。M 先生が、「どうしよう…」と考えていたその時、担当の先生が「すいませーん！」と対面して座っている子どもたちの間に座りました。その瞬間、子どもたちは会話や叫ぶのをやめ、静かになりました。

その後、(E) M 先生は R 君が自分の表情を汲み取って注意してくれたことは、とても良いことだと思いました。しかし、(F) 「その場で何もすることができなかった…お手本となる子をほめたり、R 君の言動を褒めていたら…」と後悔しました。

M 先生は「子どもの言葉をひろい、共有することで状況が変化することもある。お友だちが言っているなら…と子ども自身が思えるかも！」と考えました。(G) 「これからのことから、子どもたち同士の関わりが深まるような声がけや関わりができる保育者になりたい」と思いました。

※事例中の (D) (E) (F) (G) および傍線は、考察で使用するために著者らが付けたものである。

1-3. ペアでの対話についての評価

1 時限目の授業終了時に評価された回答について、「そう思わない」を 1 点、「そう思う」を 5 点として全て得点化し、平均値と標準偏差 (SD) を計算した (表 3-3)。「ペアの人に自分の話をじっくり聞いてもらえた」「自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた」「自分の実習体験をポジティブに (前向きに、プラスに)

考えることができた」など、対話そのものと授業の目的の一つでもあった別な視点からの体験の捉え直しが4点以上と比較的高得点であった。また、将来に向けた希望や学びを続けたことに関する項目においても、4点以上であった。一方、「自分自身の良いところや長所・強みは何かについて考えることができた」とする回答は、4点より低く、この項目に関しては、標準偏差も比較的大きい。

表 3-3 ペアでの対話の満足度得点

項 目	n	平均	SD
1 ペアの人とじっくり話をすることができた	88	4.76	0.43
2 ペアの人に自分の話をじゅうぶんに聞いてもらえた	88	4.88	0.33
3 ペアの人のお話をしっかりと聞くことができた	88	4.67	0.52
4 自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	88	4.68	0.56
5 自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	88	4.38	0.78
6 自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	88	4.38	0.73
7 自分の実習体験を、ポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた	88	4.45	0.68
8 自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	88	3.81	0.71
9 これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	88	4.00	0.76
10 自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	88	4.40	0.69
11 これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	88	4.61	0.53
12 学生生活や自分の将来に向かって、ペアの人との話から得た良いところを取り入れたい	88	4.83	0.41
全 項 目	88	53.84	4.12

1) インタビューに要した時間・ちょうどよく話せる時間

インタビューに要した時間として書かれていた時間は、一人あたり15分～30分程度で、一番多かった回答は20分程度であった。ちょうどよく話せる時間として挙げられていたのは15分～30分程度、一番多かった回答は20分であった。

2) 困ったこと

インタビューでは、話を聞く方、話し手ともに考えることで、保育に関する探究が行われる。そのため、必ずしも困ることが対話や学びの妨げになるわけではなく十分に考えながらインタビューを進めることが必要な場合がある。しかし、対話が深まらない場合には介入が必要であるため、困ったことを挙げるよう求めた。参加者が挙げていた困ったことの内容は次の通りである。①インタビュー前の段階で、「エピソードを選ぶのに時間がかかった」、「エピソードが次々と出てくるので、考えを深めたいエピソードを絞ることが難しく、時間が足りないと感じた」といったように、自分が体験したエピソードの選択が難しいこと、②「事例を話している段階で話が完結してしまい、広がりにくかった」と

いったように体験の伝達にとどまり、結論があるためペアが話を引き出しにくかったと推測される状況、③「2人とも新しい見方が見つからないとき（共有はできるが、発見になかなかつながらなかった）」、「2人とも同じ悩みを持っていた」といったような見方を変えるための視点を持つことが難しいこと、④「どのようなところを深くほり、エピソードを引き出すところはどこなのかなどを考えながら話を聞くことが難しく困った」という質問のスキルにかかわる内容、⑤「子どもの気持ちも、保育者の思いも分かるため、納得できるような見方が二人で考えたが思いつかなかった」といったような、保育者と子どもの願いの方向性が異なるためにどのようなまとめをしてよいのか分からずに悩むといったことが挙げられていた。また、⑥「順序立ててお話をすることができず、伝わりにくくしてしまった」、「相手に上手く伝えるための言語力」のように、体験を分かりやすく伝えるための方法やその時の状況・体験における登場人物の気持ちなどにあてはまる言葉が見つからなくて悩んだことが挙げられていた。

3) 改善案

対話に参加するにあたり、より参加しやすく学びが深まる方法を、参加者の立場から考えた回答は、主に次のような内容であった。①「日誌を持参すればよかった」といったように、実習の振り返りに必要な材料の持参の徹底について、②「インタビュー別にお互いに振り返る時間があれば良いなと思いました」、「具体的なエピソードについて考えておいたり、そのエピソードについての自分の考え等を持ったりしておくともっと良かっただろうと思いました」といったように、インタビュー開始前の準備の時間をしっかり取ること（または、話すテーマを決めてくるように課題を出すこと）でペアでの対話を深められるだろうという考え、③「もう少し時間に余裕があれば良かったなと思います」「紙芝居を作成する時間が欲しかったです」といったペアでの時間配分をある程度任せていたことに起因するか、話が深まったことによる時間不足等が挙げられていた。

また、この欄には感想や対話におけるそれぞれのペアによるポジティブな取り組みについても書かれており、「今までにこんなに深く掘り下げて話を聞くことがあまりなかったので、とても良い機会でした。話を聞いて、自分の気持ちにも変化があるなと感じました」、「充実したペアワークになりました」、「いつも一緒にいる友達ではない友達とペアになって新鮮でした。学びを深められた気がします」、「時間が多くあったので、詳しくお話を聞くことができました。楽しいエピソードや勉強になるエピソードも聞くことができて良かったです」といった、充実した対話になっていたことや学びがあったこと、時間に関しては充分であったという記述も見られた。

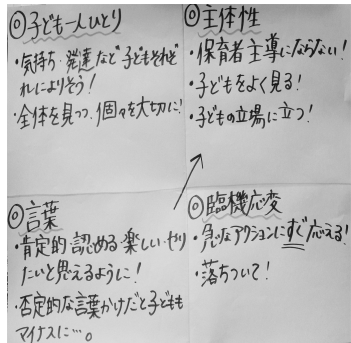
2. グループでの対話におけるキーワード探しと満足度、困ったことや改善案等

2-1. グループでの対話により見出したキーワード

グループでの対話においてはそれぞれの成長ストーリーを聴き、質問しながら、気になった文言等を書き留めていた。グループでキーワードを探す際、成長ストーリー内で使われていた同じ言葉でも少しニュアンスが違うことや、遣われ方が異なるときにそれぞれがどのような遣い方をしていたのかなどを何度か確かめながら、話し合いが行われて、共通する課題とその言葉が意味すること、グループによっては解決についても話し合っ書かれていた。一方で、それぞれの事例で大切だと思ったことを選び出し、事例で紹介した通りの説明をつけて終わらせようとするグループもあった（そのため、考える視点を提示するなどの介入をした）。各グループで同じキーワードが出ていたことがあったが、ニュアン

スや伝え方が少し異なっていた。グループから出たキーワードの例を表 3-4 に、キーワードが書かれた画用紙例を図 3-2 に示す。

表 3-4 グループのキーワード例

<p>グループ 1</p> <p>◎子ども一人ひとり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ち・発達など子どもそれぞれによりそう！ ・全体を見つつ、個々を大切に！ <p>◎言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的・認める・楽しい・やりたいと思えるように！ ・否定的な言葉かけだと子どももマイナスに…。 <p>◎主体性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者主導にならない！ ・子どもを良く見る！ ・子どもの立場に立つ！ <p>◎臨機応変</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急なアクションにすぐ応える！ ・落ち着いて！ 	
<p>グループ 2</p> <p>①子どもの力を信じる保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何でも保育者が援助するのではなく、子ども自身がやろうとする「主体性」を大切に ・子どもは大人が思っているより大きな力をもっている。 <p>②受容・共感・代弁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちを代弁することによって、子ども自身が気持ちを整理することができる。 ・子どもの気持ちに寄り添う。 <p>③臨機応変な関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに合わせて常に柔軟な対応をする。 ・その場の状況を正しく理解し、判断をする。 <p>④結果<過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたこと、できなかったことだけでなく、頑張ったこと、やろうとした気持ちを大切に ・過程で体験した気持ち。 	<p>図 3-2 キーワードを書いた画用紙例</p>

2-2. グループでの対話の満足度

2 時限目の授業終了時に評価された回答について、「そう思わない」を 1 点、「そう思う」を 5 点として全て得点化し、平均値と標準偏差 (SD) を計算した (表 3-5)。「グループの人とじっくり話をすることができた」、「自分が体験していない出来事や状況を知ることができた」など十分に話せた実感や体験の共有、「自分の実習体験を、ポジティブに (前向

きに、プラスに) 考えることできた」ことなどについては、4点以上と比較的高い満足度であった。しかし、1時限目と同様に、「自分自身の良い所や長所、強みは何かについて考えることができた」については4点を下回っていた。

表 3-5 グループでの対話の満足度得点

項目	n	平均	SD
1 グループの人とじっくりと話をすることができた	88	4.65	0.55
2 グループの人に自分の話をじゅうぶんに聞いてもらえた	89	4.76	0.45
3 グループの人の話をしっかりと聞くことができた	89	4.76	0.45
4 自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	89	4.88	0.36
5 自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	89	4.63	0.51
6 自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	89	4.40	0.62
7 自分の実習体験を、ポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた	89	4.48	0.61
8 自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	89	3.99	0.79
9 これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	89	4.21	0.76
10 自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	88	4.47	0.69
11 これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	89	4.61	0.60
12 学生生活や自分の将来に向かって、グループの人との話から得た良いところを取り入れたい	89	4.76	0.50
全項目	87	54.74	4.32

2-3. まとめの紙面作成に要した時間、グループでのキーワード探しの時間、グループでの対話中に困ったこと、他にもっとこうすると良かったこと（改善案）について

1) 成長ストーリーの紙面作成に要した時間

参加者によりばらつきが大きく、30分～300分まで、一番多かった回答は90分であった。時間を多く要した参加者にどこに時間がかかったのかを質問したところ、絵が苦手なので時間がかかったとのことであった。

2) グループでのキーワード探しの時間

この項目についても、グループによるばらつきが大きかった。短いグループでは5分、長いグループでは25分を要しており、一番多かった回答は15分であった。

3) 対話中に困ったこと

キーワード探しには、エピソードや成長についてのストーリーを共感しながら行う対話を通して共有し、保育において大事だと考えられることと照らし合わせながら共通する要素を探していくことや、キーワードの選定を行うこと、説明を考える際にも保育の中で何を大事にするか、どういう保育者像を目指していくかなどについて、存分に悩みながら考える必要があった。

ストーリー紹介・対話については一通りの説明の後で各グループに任せていたが、エピソードに共通する要素を発見しながら進めたグループや語られた内容に集中していたグループがあり、エピソードについての対話に要する時間がグループによって異なったため、時間を延長したが、その時間になっても終わらないグループが二つほど出ていた。そうした状況から、「・時間が足りなかった ・1人ひとりへのコメントをする時間がとれなかった」といった記述が見られた。また、キーワード探しについても共通する内容をどう考えるかに悩み、「キーワード探しが難しかったです」、「様々な内容のエピソードで共通のキーワードを探すことが難しい」、「キーワードの説明を考えると、どのような言葉が適切か考えるのが難しかった」といった記述が出ていた。

4) 改善案

1 グループあたりのグループの人数について、少ない方が良く、多いと話が深まるといったこと、話のまとまりやすさが挙げられていた。そして、模造紙の大きさ、グループのテーブル間の距離などについて意見が出ていた。

具体的には、人数に関しては、「もう少し、少ない人数だと、更に深く話すことができたのではないかと思います」、「グループの人数が少し多い気がしました。紙がぎゅうぎゅうになったのでもう少し少なくても良いと思いました。しかし、人数が多かったため様々な価値観が深まりました」といった意見が、模造紙については人数を減らすか、「紙が小さいと感じたため、大きくする」といった提案、グループ間の間隔については「周りの声で聞こえないところがあったので、グループごとの距離がもう少し離れていると良いと感じた」といった意見だった。

3. 全体発表における満足度、改善案等

3-1. 全体発表における満足度

3 時限目の授業終了時に評価された回答について、「そう思わない」を1点、「そう思う」を5点として得点化し、平均値と標準偏差 (SD) を計算した (表 3-6)。

「全体発表に興味を持って聞くことができた」「全体発表を聞いて新たな気づきを共有できた」など、発表とその後の短時間の対話に関する満足度、また、「自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた」「自分の実習体験をポジティブに (前向きに、プラスに) 考えることができた」は4点以上と比較的高得点だった。一方、「自分自身の良い所や調子、強みは何かについて考えることができた」「これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた」といった今後につながっていく項目については、4点を下回っており、標準偏差も比較的大きかった。

3-2. もっと取り組みやすく実り多いものとするための意見、全満足度について

全体発表では、実物提示機を利用して作成した画用紙を投影する方法で行った。そのため、発表時には、全グループがキーワードを書いた用紙を用いていたが、中にはペアの紹介の際に用いたストーリーを描いた画用紙を用いていたグループもあった。全体発表について、「最後の発表時、大きく見やすく明記したキーワードのみを表にかき、裏に細かな内容や、発表したものを書いた方がわかりやすくよみやすいと思いました」、「キーワードの用紙だけでなく、各グループの模造紙も見たいと思いました」、「描く紙を白にして、色を使って紙芝居を書くともっと伝わりやすいと思いました。そして最後の全体発表の際にその紙芝居を活かせるといいなと思いました」、グループ間でのまとめについても同質

なものが提示されるわけではなかったことから、「まとめ方に差があったように感じた。具体例が明確なものだと良いのではないかと考える。多様性は見ることができたが、まとめにくいと感じた」発表後のグループでの対話における模造紙の使い方について、「発表を聞いて、自分のグループを比較してわかった点、似ている点や新たな気づきを模造紙に記載した方がより学びが深まったと思いました」といったことが挙げられていた。

ワールドカフェのようにグループを組み替えながら話す対話方式ではなかったため、個別の事例により大きな興味を示す記述として、「もっとたくさんの人と事例を共有できる時間があると良いと思った」、「みんなの事例でどのようなものがあるのか共有したい」といった意見が挙げられていた。

一方で、「自分では気づかないことに気づくことができました。リラックスした雰囲気のできたので、沢山会話をすることができました」、「取りくみやすかったです」、「今のままで十分学びが深まりました」といった感想も見られた。

ペアでの対話から始まる3時限の授業全体についての満足度の評価については、星一つから五つを、それぞれ1点から5点と得点化した。平均値は4.23であった。

表 3-6 全体発表における満足度得点

項目	n	平均	SD
1 全体発表に興味を持って聞くことができた	89	4.76	0.45
2 全体発表を聞いて新たな気づきがあった	89	4.71	0.50
3 全体発表後のグループでの対話で発見や気づきを共有できた	89	4.65	0.50
4 自分が体験していない出来事や状況を知ることができた	89	4.75	0.43
5 自分が持っていたものとは違った意見や考え方を得ることができた	89	4.52	0.61
6 自分の実習体験を、自分の捉えとは違った視点で見つめ直すことができた	89	4.38	0.67
7 自分の実習体験を、ポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた	89	4.35	0.64
8 自分自身の良いところや長所、強みは何かについて考えることができた	89	3.71	0.76
9 これからの学生生活や、自分の将来について、前向きな気持ちになれた	89	3.82	0.70
10 自分自身の良いところや長所、強みを、さらに生かしたい	89	4.44	0.62
11 これからの学生生活や将来に向かって、もっと学びたい	89	4.64	0.53
12 学生生活や自分の将来に向かって、AIへの参加から得た良いところを取り入れたい	89	4.43	0.60
全項目	89	53.16	4.34

V 考察

本研究では、筆者らが実践してきたAIミニ・インタビューを用いた実習指導について、指導プログラム案を提案することを目的に、事後指導の授業において実践を行い、インタビューにより生成されるストーリーの質と、肯定的な変化の2点に焦点を当てて検討を

行った。

1. 生成されたストーリー例の検討

本研究では、ストーリーを2例取り上げた。まず、例1を検討する。前半(①の段落)では、A児とR児のエピソードがよく整理されてまとめられている。後半(②の段落)では、まず(A)において「Aくんが言葉で伝える前に手足を出してはいけないことを理解した」という実習生の思いが示されている。これはA児の内面についての仮説と言える。そして続く(B)において、その仮説の根拠となっているエピソードが示される。すなわち、「S先生やY先生の顔を見る」、「痛いからやだ」と自分の意見を言う、「Y先生に「先生聞いていたよ」と言われたときに「忘れてた」という顔をした」という三つのエピソードがインタビューによって引き出され、インタビューを通して、これらのエピソードが「A児には悪いことをした自覚がある」という推測に繋がり、「言葉で伝える前に手足を出してはいけないことを理解した」ことの根拠となっていることが分かる。インタビューによって、エピソードの理解が深まり、自らの仮説を確かめることができたことが見て取れる。最後に、(C)において「他の保育士に相談し、協力しながら保育を行い」という、一見表面的な将来展望が示されるが、その前段で「普段から自分の非を認めない性格から他の子どもたちとトラブルが起こりやすいことやAくんの怒るとすぐに手足が出てしまう性格」と具体的に挙げることはできたのは、振り返りが深まったことで、対象児の内面を理解することの大切さを認識した表れとみることができるだろう。

次に、例2を検討する。前半(①の段落)では、子どもたちとM先生とのエピソードがよく整理されてまとめられている。しかし、場面自体が“子どもたちを静かにさせられなかった”という内容であることもあり、全体としてM先生対子ども、という視点で、子どもの思いが表れていないものとなっている。(D)において、“大きい声で伝えるだけが方法ではない”と、自らの仮説が示されてはいるものの、その仮説についての確認はなされず、(F)においても自分の行為を失敗と捉え、否定的な感情が生じてしまっている。そのため、(E)にみられるR児への肯定的な評価も、それ以上深められることもなく、むしろ否定的な感情に押しやられているように見受けられる。この結果、(G)に示される将来展望も表面的なものにとどまっていることが分かる。

以上2例に共通する点は、エピソードについてはよく整理され、まとめられていることである。これは後で発表することを念頭に、発表しやすいように、そして理解しやすいようなまとめ方を心掛けたことの結果であるように思われる。相手の話を積極的に聞き、エピソードを抽出して、発表できる状態にするまでの、ミニ・インタビューの一連のプロセスについては、学生にとってもある程度取り組みやすい進め方になっていると言えるだろう。

一方、ストーリーの質についてみると、例1では体験を肯定的に捉えた省察が十分に行われていることが見て取れる。AIミニ・インタビューによって、肯定的変化が生じる可能性は、少なくとも一部の学生においては確認できたと言えるであろう。一方、一部の学生においては必ずしも十分な変化は生じていない。例2では自分の失敗体験を肯定的に捉えることができず、振り返りも浅いものとなっている。エピソードの理解も自己中心的で、子どもが主体となっていない。失敗体験についての否定的な感情が強いために、肯定的に捉え直すことが難しいのであろう。

この点については、インタビュアー(聞き手)の資質や技量も影響するものと思われる。

仮にインタビュアーが学生ではなく、十分な保育力と若手への指導力を持った保育者であったら、肯定的な変化をもたらすことができたかも知れない。本研究では学生同士がお互いにインタビューする形であったため、学生のリスニング・スキルの力量により差が生じた可能性がある。今後は、肯定的な捉え方に苦慮する学生に対しては、フォローアップとして、指導教員などが改めてインタビューを行ってみることなどが考えられるであろう。

2. 評価尺度やキーワードの検討

1 時限目から 3 時限目のいずれの自己評価においても、「じゅうぶんに聞いてもらえた、じっくり話すことができた」、「違った視点で見つめ直すことができた」「自分の実習体験をポジティブに（前向きに、プラスに）考えることができた」など、活動自体についての満足度や、振り返りによる捉え直しは高得点であった。本研究は比較群を設けておらず統計的な断定はできないものの、AI ミニ・インタビューは学生の評価も高く、また、肯定的変化についても実感として捉えられていると言えるであろう。また 2 時限目のキーワードについても、いずれも肯定的、前向きなものとなっており、グループでの活動中においても、肯定的な側面に意識が向けられていたことが読み取れる。

一方、評価尺度の「自分自身の良い所や長所、強みは何かについて考えることができた」といった項目については、他の項目と比較して平均値が低かった。実習体験を肯定化することはできても、そのことを自らの資質・能力に結び付けて考えることができていない可能性があるだろう。自己の資質・能力についての捉えが十分でない可能性もあり、また自己肯定感との関連も考えられる。この点については今後の検討の余地がある点であろう。

3. 具体的な授業方法の検討

今回の実践では、学生たちは授業に主体的に参加していた。AI ミニ・インタビュー全体に関する満足度も 4 点以上であり、高かったと考えられる。

改善案として示す内容や要望は、真剣な態度での参加により具体的になっているのではないかと考えられる。例えば、ペアの体験談を具体的に聞き出すことやキーワード探しの時に共通するとはどういうことかを真剣に悩んだこと、また、自分にとって他の人の事例は参考になったり学びになったりするといった実感があったことから、自分が対話できた人以外の人の事例を知りたかったという意見が出されたと推測できる。また、今回はグループ作成の際に少し楽しみながらメンバーを募れるようにと考えて色画用紙を用いたが、白の方が見やすいという意見、グループ人数や書き込む内容と模造紙の大きさ、また、ワールドカフェの実施時には他のグループの模造紙を見て回っていたことを想起したかのような授業方法の提案などがなされていた。改善に関する意見はどれも現実的な内容であり、次回の実践において実行していくことで、より参加しやすいものとなるだろう。

一方、全員が十分に対話をしたと満足できる時間を確保することや、一人ひとり、そして、グループごとに進度・深度が異なることについては、課題となった。前出のリスニング・スキルとの関連や、グループメンバーの経験と保育・保育者にとって大切なことや保育者像などを考え併せ、メンバー一人ひとりが、そして、グループとしてどのような発想をもって対話を展開していくのか、もし授業の際に対話の性質を考慮して教員が介入する程度を最小限に抑えたとしたら、発表後にフォローアップしていく必要があるだろう。

4. まとめ

以上のように、質の高いストーリーが生成される可能性があること、自己評価は総じて高く、グループ対話で生成されるキーワードも肯定的な内容が多いことが分かった。このことから、本研究で示した AI ミニ・インタビューを用いた実習指導については、一定の成果があったと言えるであろう。今後はこの指導プログラムをもとにして、広く実践が行われることが期待される。

一方、本研究では、必ずしも十分な振り返りが行われていない例も示されたほか、実習体験についての肯定的な捉え直しはできても、そのことを自身の資質・能力の向上に結びつけるのが難しいことも分かった。この点に対応しどのような指導を行えばよいかは、今後の研究課題と言えるだろう。

【引用文献】

- 1) 和田明人・井上孝之・上村裕樹 (2010)「対話による集合知の創生に関する研究－ホールシステム・アプローチの適用・試行－」, 『全国保育士養成協駿会第 49 回研究大会発表論文集』, pp. 194-195.
- 2) 利根川智子・音山若穂・三浦主博・和田明人・上村裕樹・織田栄子 (2017)「対話的アプローチが実習事後指導における協同性に及ぼす影響についての一検討」『東北福祉大学研究紀要』, 43, pp. 35-50.
- 3) 音山若穂・三浦主博・利根川智子 (2015)「教育・保育における対話型アプローチ：現状と課題」『群馬大学教育実践研究』, 32, pp. 227-237.
- 4) 利根川智子・井上孝之・和田明人・上村裕樹・三浦主博・河合規仁・安藤節子・音山若穂 (2011), 「保育実習指導における対話型アプローチの一実践と効果検証についての基礎研究」, 『保育士養成研究』, 29, pp.21-30.
- 5) 三浦主博・音山若穂・藤本このみ (2012)「保育実習指導への対話的アプローチ導入の試み」, 『東北生活文化大学・東北生活文化短期大学部紀要』, 43, pp. 115-122.
- 6) 利根川智子・音山若穂・三浦主博・井上孝之・織田栄子・上村裕樹 (2015)「保育者養成における学生の省察力育成の試み (1) － AI ミニ・インタビュー－」, 『日本教育心理学会総会発表論文集』, 57, p. 626.
- 7) 三浦主博・音山若穂・井上孝之・利根川智子 (2015)「対話型アプローチによる実習事後指導の試み－“AI ミニインタビュー”による振り返り－」, 『東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要』, 46, 151-157.
- 8) 利根川智子・音山若穂・上村裕樹 (2013), 「地域家庭教育セミナーにおけるワールドカフェの一効果 (1) ワールドカフェの事後評価の分析と年齢差の検討」, 日本心理学会第 77 回大会, 札幌コンベンションセンター, 2AM-114 (1100).

謝辞 授業の実施, 感想の記入にご協力くださいました学生の皆様に御礼申し上げます。
本研究は JSPS 科研費 JP16K00740 の助成を受けました。